

**[出題方針]**

本学部はアドミッション・ポリシーに掲げる教育理念の実現に資する人材を選抜するため、実技試験において、美術・デザイン領域の学修に必要とされる基礎的描写能力、対象への観察態度、ならびに造形的思考の適性を総合的に評価します。

受験生が対象事象に対し真摯かつ倫理的に向き合い、その把握・認識の過程を自らの判断に基づき構成および表現へと展開し得る資質を重視します。また、課題に対して自立的に取り組み、課題発見および問題解決に至る思考の柔軟性と修得意欲を確認することを目的とします。

以上の観点に基づき、実技試験では、基礎的素養とともに、本学部における教育課程を主体的かつ継続的に履修し得る適性を有する者かを判定します。

併せて、本学部が求める、社会・自然・人間に対する誠実な姿勢、協調性および円滑なコミュニケーション能力を備えているかを確認し、将来にわたり専門領域の進展に寄与し得る創造的態度を持つ受験生を選抜します。

**[高校の学習で大切にしたいこと]**

**1. よく見て、よく考える習慣を育てること**

日常の何気ないものでも、「**どうしてこう見えるのだろうか？**」「**どんな形をしているのだろうか？**」と丁寧に観察する力は、表現の大きな土台になります。スケッチや作品制作だけでなく、授業や生活の中でも“気づき”を大切にしてみてください。

**2. 自分で課題を見つけ、工夫して取り組む姿勢を持つこと**

美術やデザインの学びは、答えがひとつではありません。うまくいかなかったときほど、「**どうすれば良くなるかな？**」と考えることが力になります。試行錯誤を楽しみながら、学びや制作に前向きに挑戦する気持ちを大切にしてください。

**3. 人とのつながりや社会へのまなざしを大切にすること**

作品をつくるうえで、他者への思いやりや社会への関心は大切な要素です。友人との話し合いや共同作業でのコミュニケーション、社会や自然への興味など、日々の経験すべてが表現の源になります。他者の意見を聞き、自分の考えを伝える力も、大学での学びにつながっていきます。

**[2025年度 出題内容・出題形式・合計得点・試験時間]**

出題内容	出題形式	合計得点	試験時間
前期：「手と配布されたモチーフを自由に構成し、デッサンしなさい」	デッサン	各日程 100点	各日程 300分
中期：「自画像を描きなさい」			
後期：「『映る・反射する』をテーマにモチーフを組み合わせてデッサンしなさい」 (モチーフ：鏡面球体1個)			

## **[出題の意図]**

### **I 前期日程**

**【課題：「手と配布されたモチーフを自由に構成し、デッサンしなさい」】**

#### **1. 評価したい力**

本課題では、対象を丁寧に観察し、形・質感・空間を正確に捉える基礎的な描写力を評価します。また、手とモチーフの関係性を自らの判断で構成する過程において、主体的に課題に向き合う姿勢や、物事を多角的に捉える造形的思考力を重視します。さらに、アドミッション・ポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」や「対象への真摯な姿勢」を持ち、自ら表現の方向性を組み立てる力を評価します。

#### **2. 問題のねらい**

本課題は、観察に基づいた確かな描写と、構成要素を適切に組み合わせる判断力を確認することをねらいとしております。与えられた要素をどのように配置し、画面として成立させるかという構成力とともに、骨格や筋肉の形態理解・プロポーション・陰影表現など、美術の基礎的技能を総合的に活用できているかを確認することを目的としています。また、制約の中で自ら発想を展開する柔軟さも重要な観点として評価します。

#### **3. 大学の学びとの関連**

本学部の専門教育において、実際の対象を深く観察し、そこから得られた情報を自身の表現へと転換する力は、すべての実技科目の基盤となります。本課題は、描写力・構成力・問題解決的思考など、大学での高度な造形表現を学ぶために不可欠な基礎を確認する出題です。また、専門領域における創作・デザイン・研究活動へ主体的に取り組むための姿勢が備わっているかを判断する意図も含んでいます。

### **II 中期日程**

**【課題：「自画像を描きなさい」】**

#### **1. 評価したい力**

本課題では、自身を対象として捉える際の誠実な観察力と、内面的な理解を造形へ反映させる表現力を評価します。また、自己をどのように解釈し画面構成へと結びつけるかという主体的な判断力を重視します。アドミッション・ポリシーに掲げられた「人間や社会に対して真摯に向かい合う姿勢」や「学ぶ意欲」を基盤として、自分自身と向き合いながら課題に取り組む資質を確認します。

## 2. 問題のねらい

本課題のねらいは、顔や身体の構造を理解し、観察に基づいた形態把握を行えるかを確認することにあります。また、自分の特徴や個性をどのように画面に反映させるかという表現上の工夫を促し、描写力と自己探究的態度を同時に確認することを目的としています。単なる再現にとどまらず、個性や視点を意識した造形力の発揮も重要な評価項目です。

## 3. 大学の学びとの関連

自画像の制作は、造形表現の基礎となる人体理解や観察力の向上に直結するだけでなく、自己の内面と向き合い、それを表現へ転換する過程を経験する重要な課題です。大学における専門教育では、作品制作・研究・デザイン提案など、あらゆる場面で「自分の考えを的確に表現する力」が求められます。本課題は、その基礎となる自発的探究心と表現の主体性を確認し、今後の学修に必要な根幹的能力を測るための出題です。

## Ⅲ 後期日程

**【課題：「『映る・反射する』をテーマにモチーフを組み合わせてデッサンしなさい」  
(モチーフ：鏡面球体 1 個)】**

### 1. 評価したい力

本課題では、「映る・反射する」という現象への感受性と理解をもとに、複数の要素を組み合わせて画面を構成する発想力と造形的思考力を評価します。また、光や素材の性質を視覚的に捉える観察力、そして与えられたテーマを自ら解釈し、表現に結びつける主体性を重視します。アドミッション・ポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」および「多様化する領域に挑戦する姿勢」に照らし、柔軟な発想と表現に向き合う力を確認します。

### 2. 問題のねらい

本課題のねらいは、光・影・反射・透過など、視覚現象の理解を基盤として、自らの判断で画面を成立させる力を測ることにあります。モチーフの組み合わせ方や視点の選択において、受験生がどのようにテーマを解釈し、構成に落とし込むかをみることで、創造性と論理的な構成力の双方を確認します。技術的な描写だけでなく、テーマに対する思考の深さや表現上の工夫も重要な観点となります。

### 3. 大学の学びとの関連

光と物質の関係を理解し、それを画面上で再現・構成する力は、美術・デザインのあらゆる専門領域において基礎となる能力です。本課題は、観察と解釈を往復しながら作品を組み立てる思考過程を体験するものであり、大学での実技・研究・制作に不可欠な表現基盤を確認する目的で出題しています。また、テーマにもとづく創作やプロジェクト型課題において求められる主体性と探究心を育む素養が備わっているかを判断するための課題でもあります。